

聖イグナチオ教会 四旬節黙想会 (2024年3月20日)

聖イグナチオ教会(麴町教会)の目標の一つ:「共に歩む教会」が掲げられています。教会全体で取り組み始めているシノダリティーにつながる目標です。

教会のシノダリティー、共に歩み福音宣教の使命を果たす教会を目指すには、共に歩む人々の声に響く聖霊の呼びかけに耳を傾けることが出発点です。

人々の声に響く聖霊の呼びかけに耳を傾けましょう。そのためのヒントになると思われる旧約聖書の物語を読み、黙想しましょう。

第一講話: 聞くこと (10時10分~30分)

アブラハムの旅立ち (創世 12:1~4)

ナアマンの癒し (列王下 5:1~19)

黙想: (10時30分~50分)

神の御前にいることを思いながら、振り返ってみましょう。目標が見えず、探しながら歩いたこと、何か大切なことを見つけた喜び、その中でも心の奥深いところの喜びに気づいたこと。アブラハム、ナアマンの物語と響き合うことはありましたか?

創世記 11 章

(26) テラが七十歳になったとき、アブラム、ナホル、ハランが生まれた。(27) テラの系図は次のとおりである。テラにはアブラム、ナホル、ハランが生まれた。ハランにはロトが生まれた。(28) ハランは父のテラより先に、故郷カルデアのウルで死んだ。(29) アブラムとナホルはそれぞれ妻をめぐった。アブラムの妻の名はサライ、ナホルの妻の名はミルカといった。ミルカはハランの娘である。ハランはミルカとイスカの父であった。

(30) サライは不妊の女で、子供ができなかった。(31) テラは、息子アブラムと、ハランの息子で自分の孫であるロト、および息子アブラムの妻で自分の嫁であるサライを連れて、カルデアのウルを出発し、カナン地方に向かった。彼らはハランまで来ると、そこにとどまった。(32) テラは二百五年の生涯を終えて、ハランで死んだ。

創世記 12 章

(1) 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、私が示す地に行きなさい。(2) 私はあなたを大いなる国民にしあなたを祝福し、あなたの名を高める、祝福の源となるように。(3) あなたを祝福する人を私は祝福し、あなたを呪う者を私は呪う。地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る」。(4) アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。アブラムは、ハランを出発したとき七十五歳で

あった。(5) アブラムは、妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた財産をすべて携え、ハランで、加わった人々と共にカナン地方へ向かって出発し、カナン地方に入った。(6) アブラムはその地を通り、シケムの聖所、モレの櫛の木まで来た。当時、その地方にはカナン人が住んでいた。(7) 主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える」。アブラムは、彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。(8) アブラムは、そこからベテルの東の山へ移り、西にベテル、東にアイを望む所に天幕を張って、そこにも主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。(9) アブラムは更に旅を続け、ネゲブ地方へ移った。

列王記下巻 5章

(1) アラムの王の軍司令官ナアマンは、主君に重んじられ、気に入られていた。主がかつて彼を用いてアラムに勝利を与えられたからである。この人は勇士であったが、重い皮膚病を患っていた。(2) アラム人がかつて部隊を編成して出動したとき、彼らはイスラエルの地から一人の少女を捕虜として連れて来て、ナアマンの妻の召し使いにしていた。(3) 少女は女主人に言った。「御主人様がサマリヤの預言者のところにおいでになれば、その重い皮膚病をいやしてもらえるでしょうに」。(4) ナアマンが主君のもとに行き、「イスラエルの地から来た娘がこのようなことを言っています」と伝えると、(5) アラムの王は言った。「行くがよい。私もイスラエルの王に手紙を送ろう」。こうしてナアマンは銀十キカル、金六千シェケル、着替えの服十着を携えて出かけた。(6) 彼はイスラエルの王に手紙を持って行った。そこには、こうしたためられていた。「今、この手紙をお届けするとともに、家臣ナアマンを送り、あなたに託します。彼の重い皮膚病をいやしてくださいように」。(7) イスラエルの王はこの手紙を読むと、衣を裂いて言った。「私が人を殺したり生かしたりする神だとでも言うのか。この人は皮膚病の男を送りつけていやせと言う。よく考えてみよ。彼は私に言いがかりをつけようとしているのだ」。(8) 神の人エリシャはイスラエルの王が衣を裂いたことを聞き、王のもとに人を遣わして言った。「なぜあなたは衣を裂いたりしたのですか。その男を私のところによこしてください。彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう」。(9) ナアマンは数頭の馬と共に戦車に乗ってエリシャの家に来て、その入り口に立った。(10) エリシャは使いの者をやってこう言させた。「ヨルダン川に行って七度身を洗いなさい。そうすれば、あなたの体は元に戻り、清くなります」。(11) ナアマンは怒ってそこを去り、こう言った。「彼が自ら出て来て、私の前に立ち、彼の神、主の名を呼び、患部の上で手を動かし、皮膚病をいやしてくれるものと思っていた」。(12) イスラエルのどの流れの水よりもダマスコの川アバナやパルパルの方が良いではないか。これらの川で洗って清くな

れないというのか」。彼は身を翻して、憤慨しながら去って行った。(13)しかし、彼の家来たちが近づいて来ていさめた。「わが父よ、あの預言者が大変なことをあなたに命じたとしても、あなたはそのとおりにさったにちがいありません。あの預言者は、『身を洗え、そうすれば清くなる』と言っただけではありませんか」。(14)ナアマンは神の人の言葉どおりに下って行って、ヨルダンに七度身を浸した。彼の体は元に戻り、小さい子供の体のようになり、清くなった。(15)彼は随員全員を連れて神の人のところに引き返し、その前に来て立った。「イスラエルのほか、この世界のどこにも神はおられないことが分かりました。今この僕(=しもべ)からの贈り物をお受け取りください」。(16)神の人は、「私の仕えている主は生きておられる。私は受け取らない」と辞退した。ナアマンは彼に強いて受け取らせようとしたが、彼は断った。(17)ナアマンは言った。「それならば二頭に負わせることができるほどの土をこの僕にください。僕は今後、主以外の他の神々に焼き尽くす献げ物やその他のいけにえをささげることとはしません。(18)ただし、この事については主が僕を赦してくださいますように。私の主君がリモンの神殿に行ってひれ伏すとき、私は介添えをさせられます。そのとき、私もリモンの神殿でひれ伏さねばなりません。私がリモンの神殿でひれ伏すとき、主がその事についてこの僕を赦してくださいますように」。(19)エリシャは彼に、「安心して行きなさい」と言った。

第二講話：聞くことを妨げるもの（11時5分～25分）

ゲハジの失敗（列王下 5:19～27）

荒れ野の蛇（民数 21:4～9）

黙想：（11時25分～45分）

大切にしなければならないことと、そうではないことを取り違えたことはありませんか。耳を傾けるべきだったのは、誰の言葉だったのでしょうか。より良いものに気づいたとき、神は何をくださったのでしょうか。ナアマンとゲハジ、炎の蛇と青銅の蛇、物語をとおして何が心に響いたのでしょうか。

列王記下巻5章（後半）

ナアマンがエリシャと別れて、少し行ったとき、(20) 神の人エリシャの従者ゲハジは、「私の主人は、あのアラム人ナアマンが持って来たものを何も受け取らずに帰してしまった。主は生きておられる。彼を追いかけて何かもらってこよう」と言って、(21) ナアマンの後を追った。ナアマンは彼が後を追って来るのを見て、戦車から飛び降り、彼を迎え、「どうかなさいましたか」と尋ねた。(22) 彼は答えた。「何でもありません。私の主人が私を遣わしてこう言いました。『今し方預言者の仲間の若い者が二人エフライムの山地から着いた。彼らに銀一キカルと着替えの服二着を与えてほしい』」。

(23) ナアマンは、「どうぞ、二キカル取ってください」と言ってしきりに勧め、二つの袋に銀二キカルを詰め、着替えの服二着を添えて、自分の従者二人に渡した。彼らはそれを持ち、ゲハジの先に立って進んだ。(24) オフェルに着いたとき、ゲハジは彼らからそれらを受け取って家にしまい込み、彼らを帰した。彼らは去って行った。(25) 彼が主人のところに来て立つと、エリシャは、「ゲハジ、お前はどこに行っていたのか」と言った。ゲハジは、「僕(=しもべ)はどこにも行っていません」と答えたが、(26) エリシャは言った。「あの人が戦車から降りて引き返し、お前を迎えたとき、私の心がそこに行っていなかったとでも言うのか。今は銀を受け、衣服、オリーブの木やぶどう畑、羊や牛、男女の奴隷を受け取る時であろうか。(27) ナアマンの重い皮膚病がお前とお前の子孫にいつまでもまといつくことになるのに」。ゲハジは重い皮膚病で雪のようになり、エリシャの前から立ち去った。

民数記 21 章

(4) 彼らはホル山を旅立ち、エドムの領土を迂回し、葦の海の道を通って行った。しかし、民は途中で耐えきれなくなって、(5) 神とモーセに逆らって言った。「なぜ、我々をエジプトから導き上ったのですか。荒れ野で死なせるためですか。パンも水もなく、こ

んな粗末な食物では、気力もうせてしまいます」。(6) 主は炎の蛇を民に向かって送られた。蛇は民をかみ、イスラエルの民の中から多くの死者が出た。(7) 民はモーセのもとに来て言った。「私たちは主とあなたを非難して、罪を犯しました。主に祈って、私たちから蛇を取り除いてください」。モーセは民のために主に祈った。(8) 主はモーセに言われた。「あなたは炎の蛇を造り、旗竿の先に掲げよ。蛇にかまれた者がそれを見上げれば、命を得る」。(9) モーセは青銅で一つの蛇を造り、旗竿の先に掲げた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぐと、命を得た。

関連する聖書箇所：出エジプト記 17 章

(1) 主の命令により、イスラエルの人々の共同体全体は、シンの荒れ野を出発し、旅程に従って進み、レフィディムに宿営したが、そこには民の飲み水がなかった。(2) 民がモーセと争い、「我々に飲み水を与えよ」と言うと、モーセは言った。「なぜ、私と争うのか。なぜ、主を試すのか」。(3) しかし、民は喉が渴いてしかたないので、モーセに向かって不平を述べた。「なぜ、我々をエジプトから導き上ったのか。私も子供たちも、家畜までも渴きで殺すためなのか」。(4) モーセは主に、「私はこの民をどうすればよいのですか。彼らは今にも、私を石で打ち殺そうとしています」と叫ぶと、(5) 主はモーセに言われた。「イスラエルの長老数名を伴い、民の前を進め。また、ナイル川を打った杖を持って行くがよい。(6) 見よ、私はホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる」。モーセは、イスラエルの長老たちの目の前でそのとおりにした。(7) 彼は、その場所をマサ（試し）とメリバ（争い）と名付けた。イスラエルの人々が、「果たして、主は我々の間におられるのかどうか」と言って、モーセと争い、主を試したからである。

(8) アマレクがレフィディムに来てイスラエルと戦ったとき、(9) モーセはヨシュアに言った。「男子を選び出し、アマレクとの戦いに出陣させるがよい。明日、私は神の杖を手を持って、丘の頂に立つ」。(10) ヨシュアは、モーセの命じたとおりに実行し、アマレクと戦った。モーセとアロン、そしてフルは丘の頂に登った。(11) モーセが手を上げている間、イスラエルは優勢になり、手を下ろすと、アマレクが優勢になった。(12) モーセの手が重くなったので、アロンとフルは石を持って来てモーセの下に置いた。モーセはその上に座り、アロンとフルはモーセの両側に立って、彼の手を支えた。その手は、日の沈むまで、しっかりと上げられていた。(13) ヨシュアは、アマレクとその民を剣にかけて打ち破った。(14) 主はモーセに言われた。「このことを文書に書き記して記念とし、また、ヨシュアに読み聞かせよ。『私は、アマレクの記憶を天の下から完全にぬぐい

去る』と」。(15) モーセは祭壇を築いて、それを「主は我が旗」と名付けて、(16) 言った。「彼らは主の御座に背いて手を上げた。主は代々アマレクと戦われる」。